



2023

環境・社会活動報告書

---

Environment / CSR Report

あなたへ贈る

「白の一滴、心の一滴」

― 酪農家の心を食卓へ ―



大山乳業農業協同組合

# 環境・社会活動報告書 2023

Environment / CSR Report 2023

## ■ 組合概要

名称 大山乳業農業協同組合  
代表者 代表理事組合長 小前 孝夫  
所在地 鳥取県東伯郡琴浦町保37-1  
設立 昭和21年7月21日  
出資金 8億9,316万円  
取扱品 牛乳、成分調整牛乳、乳飲料、発酵乳、乳製品、アイスクリーム、菓子等

## ■ 大山乳業農業協同組合の「心」

大山乳業農業協同組合のシンボルマークは「白バラ」です。「白バラ」の花言葉には、正直・純粹・そして「あなたにふさわしい」という意味が込められており、「白バラ」のように純粹で純良な牛乳の生産を原点として、人と心のふれあいを大切に、これからも人々の健全な暮らしづくりのために貢献してまいります。



## ■ 編集方針

当組合は、組合員や取引先、行政などのステークホルダー（利害関係者）の皆さまに、持続可能な社会の実現に向けた取り組みをお伝えする情報開示媒体として、「環境・社会活動報告書2023」を発行しています。

【報告期間】  
2023年1月1日～2023年12月31日

## ■ 目次

- 02 | 組合概要/大山乳業農業協同組合の「心」/編集方針/目次
- 03 | 基本理念/新たな酪農ビジョンと行動指針/SDGsへの取り組み
- 04 | サステナビリティ
- 06 | 2023年注目の取り組み
- 07 | 酪農指導部門の取り組み
- 08 | 製造部門・品質管理部門の取り組み
- 09 | 販売部門の取り組み
- 10 | 総務部門・総合企画部門の取り組み
- 11 | 2023 地域貢献活動

# あなたへ贈る 「白の一滴、心の一滴」

## — 酪農家の心を食卓へ —

大山乳業農業協同組合は、

生産・処理・販売一貫体制の酪農専門農協として、  
公正で正直な行動により、組織・事業・経営の革新を図り、  
社会的役割と責任を果たすことを基本理念としています。

純白の牛乳一滴一滴にまごころを込め、  
酪農家の心をそのままお届けします。

### 新たな酪農ビジョンと行動指針

ビジョン(6年後のめざす姿)

## 地域と共生した 持続可能で実りある酪農

### 行動指針

1. 持続的な生産基盤の実現
2. 充実した酪農経営の追求
3. 地域との共生

## SDGsへの取り組み

当組合の理念に基づき、国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に貢献し、社会的課題の解決および持続可能な社会の実現に努めます。

また、「酪農」・「ものづくり」・「環境」・「くらし」の4項目を重点課題と定め、SDGs達成に向けて取り組んでまいります。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### 酪農

高品質な生乳生産のため、酪農家とともに乳牛の健康管理や飼育環境づくりに努め、鳥取県の酪農発展に貢献します。

### 環境

食品安全とともに環境配慮を経営の重要な柱と位置づけ、省エネやリサイクル等を推進し、地域環境への負担低減に努めます。

### ものづくり

安心・安全でおいしい牛乳・乳製品をお客様へお届けするため、品質管理を徹底し、食の安全と品質向上に取り組めます。

### くらし

「白バラ」らしい職員の育成と多様な人材が活躍できる職場づくりを目指します。また、豊かで暮らしやすい地域社会の実現に貢献します。



sustainability

# サステナビリティ

大山乳業の環境に配慮した取り組み



## SDGs TOPICS J-クレジット 売買契約書調印式



### 鳥取県中部森林組合とJ-クレジットの 売買契約を締結しました

鳥取県中部森林組合と大山乳業農協との間で「オフセット・クレジット売買契約」が締結され、3月9日に、オフセット・クレジット売買契約書調印式を行いました。

J-クレジット制度とは、省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO<sub>2</sub>等の排出削減量や、適

切な森林管理によるCO<sub>2</sub>等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度で、10t分を当組合が購入しました。J-クレジット購入にともない鳥取県より、「J-クレジットとつとりの森を守る優良企業」として認定されました。

## SDGs TOPICS 太陽光発電設備導入

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



11 住み続けられる  
まちづくりを



13 気候変動に  
具体的な対策を





### 太陽光発電パネルを設置し 再生可能エネルギーの活用をしています

昨今の電力価格高騰を受け、安定的な生乳処理を継続するため、鳥取県の補助事業(乳業工場省エネ推進事業)を活用し、11月に出力510Wの太陽光発電パネル736枚を当組合牛乳・ヨーグルト工場の屋根に設置しました。発電した電力は自家消費し、本所工場全体の約3%の電気使用量を削減

することを目標としています。また、パネルが直射日光を遮り、工場内への熱の侵入を低減することで、冷凍機の動力節減も見込まれます。この取り組みにより、エネルギー効率の向上やコスト削減、再生可能エネルギーの利用促進に貢献していきます。

## SDGs TOPICS エコフィード

9 産業と技術革新の  
基盤をつくろう



17 パートナーシップで  
目標を達成しよう





### 持続可能な飼料生産システムの 構築に着手し、実用化を進めています

急激な飼料価格高騰への対策として、エコフィード(食品残さから製造する飼料)による持続可能な飼料生産システムを構築し、豆乳おからを飼料化して酪農家に供給する仕組みづくりに着手しました。2022年3月から、鳥取県や地元の豆乳製造企業のもと、県畜産試験場や

大山放牧場での給与試験を実施しました。有機酸を添加して腐敗を抑制する方法を確立し、年間560tの豆乳おからを有効活用することが可能になりました。2023年4月から協力していただけの酪農家数戸で1年間にわたり給与試験を行い、実用化に向けて取り組みを進めています。

# 2023年 注目の取り組み

## SPECIAL TOPICS 新飼料倉庫稼働



### 新たな飼料倉庫が完成 ワンストップ化による効率化

1月末、大山乳業農協本所工場の西側に新たな飼料倉庫が完成しました。

2月8日には竣工式が執り行われ、関係者一同による牛乳の乾杯で完成を祝いました。

酪農指導部ではこれまで2つの飼料倉庫（本所工場敷地内と本所工場北西の県道沿い）を管理運用していましたが、

2つの倉庫を1つの場所に集約することにより、飼料や乾牧草、肥料、薬剤などの引き取りを1カ所で完結することができ、酪農家の皆さんの利便性が高まることが期待されます。また、新しい倉庫は防鳥ネットなど周辺的环境にも配慮した設計となっています。

## SPECIAL TOPICS 第22回大山まきば祭



### 4年ぶりに開催 第22回大山まきば祭

9月24日、大山まきばみるくの里芝生広場をメイン会場に「第22回大山まきば祭」が開催されました。

当イベントは、日頃ご愛顧いただいている消費者の方々へ感謝を伝えるとともに、組合員・役職員との触れ合いを楽しむための感謝祭です。

テーマである「牛乳で心をひとつに！

笑顔で乾杯 大山まきば祭」にちなんで、開会式では600名の来場者と一緒に牛乳の乾杯が行われました。恒例の乳搾り大会やポニー乗馬、バター作り体験、酪農女性部によるみるく鍋の無料配布に加え、チェンソーアートのステージパフォーマンスが行われ、来場者でにぎわいました。

# 酪農指導部門の取り組み

Guidance department Report



SDGs 関連項目

## TOPICS - 1 中国地区良質生乳出荷者表彰



### 3年連続！受賞者の半数以上を鳥取県の酪農家が占める

2020年度より実施されている、中国地区で年間を通じて良質な生乳の出荷者を表彰する制度「中国地区良質生乳出荷者表彰」において、今年度の表彰者は28名となり、当組合の酪農家はホルスタイン部門で14名が受賞し、受賞者の半数以上を占めました。

酪農家の高い意識が牛乳の美味しさに繋がり、また、酪農家と職員が一丸となり、様々な取り組みを実践した結果となりました。

## TOPICS - 2 酪農危機を乗り越えるために



### 鳥取県の酪農を守るために意見交換会開催

5月24日に、鳥取県の平井知事と酪農家との意見交換会が行われました。

小前組合長は鳥取県からの支援に感謝の意を伝え、新たなビジョンに向けた検討を進める方針を示しました。参加者は自給飼料プロジェクト、酪農経営の現状について説明しました。

平井知事は酪農家の努力を評価し、その後、持続的な経営基盤維持のための支援をいただくこととなりました。

## TOPICS - 3 カウネット本格運用開始



### 個体識別情報ネットワーク「カウネット」酪農のICT化を推進

個体識別情報ネットワーク「カウネット」の本格運用が1月20日より開始しました。

牛トレーサビリティ法に基づく法定義務である牛の出生から除籍までの個体情報報告の手書きでの記入負担を軽減するため、携帯電話やパソコンを活用し個体識別番号のインターネット入力を可能とするシステムを構築しました。システム運用により、大幅に入力作業が削減され、酪農家の負担軽減につながっています。

# 製造部門・品質管理部門の取り組み

Manufacturing department / quality control department Report

SDGs 関連項目



## TOPICS - 1

### エネルギー使用状況・ 廃棄物の排出状況



## データから読み解く

### 廃棄物排出量とエネルギー使用量の削減

廃棄物排出量は前年比10%削減の129 t、原単位1%削減を達成しました。製造や物流トラブルによるロスの削減、リサイクル率向上などが要因と考えられます。

エネルギー使用量は製造量の減少に伴い削減したものの、原単位はほぼ横ばいとなりました。世界情勢により高騰していたエネルギー単価の下落が見られ、増加していた経費が削減され、次年度も改善される見込みです。

## TOPICS - 2 食の安全向上と品質向上



## 鳥取県食品衛生大会

### 食品衛生優良施設として2部門受賞

11月24日、鳥取県食品衛生協会主催の「令和5年度鳥取県食品衛生大会」で、大山乳業農協は食品衛生優良施設として「鳥取県知事表彰」、「一般社団法人鳥取県食品衛生協会長表彰」の2部門を受賞しました。

この表彰は、鳥取県において食品衛生の普及向上に功績のあった方及び優良な食品衛生施設に対するものです。今後も食品衛生向上に努め、より良い製品づくりに取り組みます。

## TOPICS - 3 省エネ活動



## 粉乳工場ボイラー更新

### 運転効率向上と環境負荷低減

粉乳の製造で使用するボイラーは設置後10年以上が経過し、運転効率が低下していたことから、11月に機器の更新を行いました。

従来の機器に比べ、運転効率は約10%向上し、CO<sub>2</sub>は約12%の削減が見込まれます。また、薬剤使用量も低減されるため、環境への負荷が抑えられます。エネルギー使用量などのデータを一括管理できるスコアシステムも併せて導入したことで、今まで以上にきめ細かな管理が可能になりました。

# 販売部門の取り組み

Sales department Report

SDGs 関連項目



## TOPICS - 1 産直交流の取り組み



### 京都生協・コープしが組合員の キャンプでの産直交流が4年ぶりに再開

鳥取市の美歎牧場で、京都生協の「もーもーキャンプ」(7月29日～7月30日)、コープしがの「サマーキャンプ」(8月5日～8月6日)が4年ぶりに開催されました。京都生協から53名、コープしがから67名の組合員が参加しました。

新設の炊事場での夕食作りやキャンプファイヤー、牛の餌やり体験、スイカ割りなど組合員と酪農家の交流が活発に行われました。

## TOPICS - 2 香港へ白バラ牛乳輸出開始



### 香港牛乳輸出開始に向けた調印式

白バラ牛乳の香港輸出に向け、7月5日に当組合にて大山香港有限公司と潤徳株式会社と大山乳業3者の取引基本契約書調印式が行われました。牛乳の海外輸出は初めての試みで、鳥取県の良質な生乳の消費拡大を図る目的で取り組みが進められました。香港への白バラ牛乳販売プロモーションは2024年1月から本格的に開始されています。

## TOPICS - 3 教育機関コラボ(やずレーヌ)



### 地元学生との商品開発第7弾 やずレーヌ発売

鳥取県立八頭高等学校の学生とのコラボ商品「やずレーヌ」が発売されました。

八頭町の特産品「花御所柿」の規格外品を活用し、20名の生徒が1年間の探求学習で開発に取り組みました。町名を商品名に入れ込み、パッケージは町の風景を表現しています。

当組合の6次産業に関わる地元の学校とのコラボ企画は第7弾を迎え、地域や学生、職員にとっても有意義な取り組みとなっています。

# 総務部門・総合企画部門の取り組み

General affairs department/general planning department Report



SDGs 関連項目

## TOPICS - 1 デジタル化の取り組み



### 業務の DX化と 組合全体のデジタル化推進へ

今年度は、組合全体で業務のDX化とデジタル化に重点を置き、紙帳票業務のDX化を推進しました。総務部門では、給与明細・年末調整業務のWeb化、指導課や販売受注のオンラインデータ化を実現。製造部門ではハンディターミナルを導入し、目視チェックから文字読み取り装置での自動化に成功しました。

この取り組みが全国的に評価され、日経産業新聞で業務改善プロジェクトチームが紹介されました。

## TOPICS - 2 経営企画機能の強化



### 持続可能な酪農乳業の実現に向けて 新ビジョン策定

新型コロナウイルス感染症の拡大や世界情勢の急激な変化などにより、酪農を取り巻く環境が大きく変化しています。そこで部門横断型のプロジェクトチームを発足し、既存のビジョンを振り返るとともに、6年後の2029年を目標とした「新白バラ酪農ビジョン」を策定しました。また、『持続可能な酪農乳業』の実現に向けた第9次中期経営計画も策定するなど、経営企画機能の強化に取り組みました。

## TOPICS - 3 SNS 広報の強化



### SNSの取り組みにより 昨年よりフォロワー数が大幅に増加

組合が運営するSNSの総フォロワー※数は昨年末から約1.4万人増加し、5.5万人を突破しました。SNSが消費者の情報収集源として一般的になり、フォロワー数の増加は情報発信力の強化に直結しています。

今後も新規フォロワー獲得に取り組み、組合製品を多くのお客様に知っていただけるよう、SNSをブランドコミュニケーションツールとして発展させていきます。

※フォロワー：特定のアカウントの投稿や活動をチェックしているユーザー

# 2023

Local contribution activities

## 地域貢献活動

SDGs 関連項目



### TOPICS 1

#### 地域子ども食堂 「ほくほく食堂」へ製品提供

夏休み、冬休み期間中に、子どもたちひとり暮らしの高齢者の孤食への対応や、居場所づくりを目的とした北栄町の子ども食堂「ほくほく食堂」へ組合製品のアイス、ヨーグルトを提供しました。



### TOPICS 2

#### 地域環境保全活動 (八橋海水浴場)

6月の牛乳月間に合わせた一般社団法人日本乳業協会の取り組み『全国一斉地域清掃活動にチャレンジ!』に賛同し、八橋海水浴場(琴浦町)の環境保全活動を毎年実施しています。



### TOPICS 3

#### フードドライブ (鳥取県生協)

鳥取県生活協同組合の「フードドライブ事業」に賛同し、各家庭で使い切れない食品を持ち寄り、地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動に参加しました。



### TOPICS 4

#### 日本海駅伝 ゼッケンスポンサー

スポーツ振興を目的に、新日本海新聞社主催の「第43回日本海駅伝競走大会」でゼッケンスポンサーを務めました。地元の特産品や土産を販売する「おもてなしブース」は4年ぶりに再開されました。



### TOPICS 5

#### 「大山の頂上を保護する会」へ 寄付金贈呈

「第22回大山まきば祭」の売上の一部を、「大山の頂上を保護する会」の会長である竹口大山町長へ寄付金として贈呈しました。今後も、大山の自然環境保護への支援を続けていきます。



### TOPICS 6

#### スポーツ選手を招いて 卓球イベントを開催!

倉吉市体育文化会館にて当組合主催の卓球交流イベントを開催しました。特別講師に卓球選手 松平賢二氏を招き、鳥取県の小、中学生に卓球の技術指導、体づくりについての講演を行いました。



大山乳業農業協同組合のSNSはこちらから！



Instagram



facebook



Youtube



X



大山乳業農業協同組合



WEB SITE